

福島を「福」の「島」に。 地域の人たちに尽くしたい

いわき市保健福祉部
長寿介護課 課長補佐

はせがわ
せがわ
まさのり
長谷川 政宣

さん 創価大学文学部卒業

「東日本大震災を経験して、市区町村といった基礎自治体が必要だと実感しました」

いわき市役所に勤める長谷川政宣さんは、こう語る。昨年三月一日は、市庁舎の三階にいた。建物が倒壊するかと思うほどの強烈な揺れだったという。庁舎で夜を明かし、翌日は朝から避難所になった小学校で被災者への対応に追われた。

「届いたおにぎりの中には、阪神・淡路大震災を経験した神戸からのものも。長崎からは県、市の職員が、大型バスで二〇時間かけて駆けつけてくれました」

いわき市の被害は、本年七月一日現在、死者四二四人。半壊以上の建物被害が約四万棟。同七月六日現在でも、市内の一時提供住宅で暮らす人が約八七〇〇人いる。

「震災のとき、地域の支え合いによって人的被害を最小限



に留めることができた地域がありました。結局、日ごろからの顔の見える人と人とのネットワーク作りが大切だと考え、現在は高齢者見守り隊など、住民のみなさんと一緒に活動を始めています」

長谷川さんは、高校生の時に留学生を通じて、タイに興味を持つようになった。創価大では、東南アジア研究会に所属、タイの名門タマサート大学に留学した。そのまま大

「地域に徹することが世界に通じる」と長谷川さん

創価大学は、「学生のための大学」「社会に貢献する大学」を掲げ、「創造的人間」の育成をめざしています。交流大学は四六カ国・地域の二三六校に及び、グラスゴー大学やモスクワ大学などに学生を派遣しています。卒業生は、国際機関や法曹界、教育界をはじめ、行政機関、企業等で、グローバルな視野をもち活躍しています。

うとしたことは、いわきでもできる。むしろ、ここでこそ自分の力が必要とされているのではないか。

「創価大のA棟校舎正面に建つブロンズ像には、『英知を磨くは何のため 君よ それを忘るるな』と刻まれています。今も、常に『何のため』と問いかけながら、一つひとつ全力で取り組んでいます」

学院に進みたいと考えていたが、実家の事情で帰国。「タイにある国際機関で働くのが夢でした。でも、ある先輩に『好きな道を行くのもいいけど、行く道を好きになるという生き方もあるよ』とアドバイスを受けました。その言葉がすくと胸に入って、ああ、そうか、今、自分が居るところで精一杯できることをやろうと思ったんです」

タイの人たちのためにやる

「タイにある国際機関で働くのが夢でした。でも、ある先輩に『好きな道を行くのもいいけど、行く道を好きになるという生き方もあるよ』とアドバイスを受けました。その言葉がすくと胸に入って、ああ、そうか、今、自分が居るところで精一杯できることをやろうと思ったんです」

タイの人たちのためにやる



はせがわ・まさのり／一九六七年いわき市生まれ。八四年福島県立湯本高等学校を卒業し、創価大学に入学。在学中、タイのタマサート大学に派遣留学。九二年いわき市役所入庁。カナダ・モントリオール大学(財)ふくしま自治研修センター・シンクタンクふくしまに派遣。二〇一一年度東京財団週末学校修了。二一年六月から現職。